

秋山庄太郎記念 第13回 花見山フォトコンテスト 応募要項

応募締切 平成30年6月4日(月) 必着

応募部門・各賞・審査員

- 花見山の四季部門 …… 福島市の花の名所「花見山公園」の四季折々の魅力を伝える作品。
- 福島ふるさと部門 …… 福島県の風景や行事などを撮影した作品。福島県の魅力を全国各地に発信する作品。

賞/部門	花見山の四季部門	福島ふるさと部門
最優秀賞	秋山庄太郎賞 1点 副賞/秋山庄太郎額装作品	ふるさと賞 1点 賞金5万円
優秀賞	2点 賞金1万円	2点 賞金1万円
レディース賞	1点 賞品	1点 賞品
企業賞選	11点 (企業賞協賛各社より各1点、他入選)	11点 (企業賞協賛各社より各1点、他入選)
審査員	秋山庄太郎写真芸術協会 秋山庄太郎写真美術館	主催者及び主催者が委任する審査員

※花見山の四季部門の入選作品は、東京南青山の秋山庄太郎写真美術館で展示を予定しています。

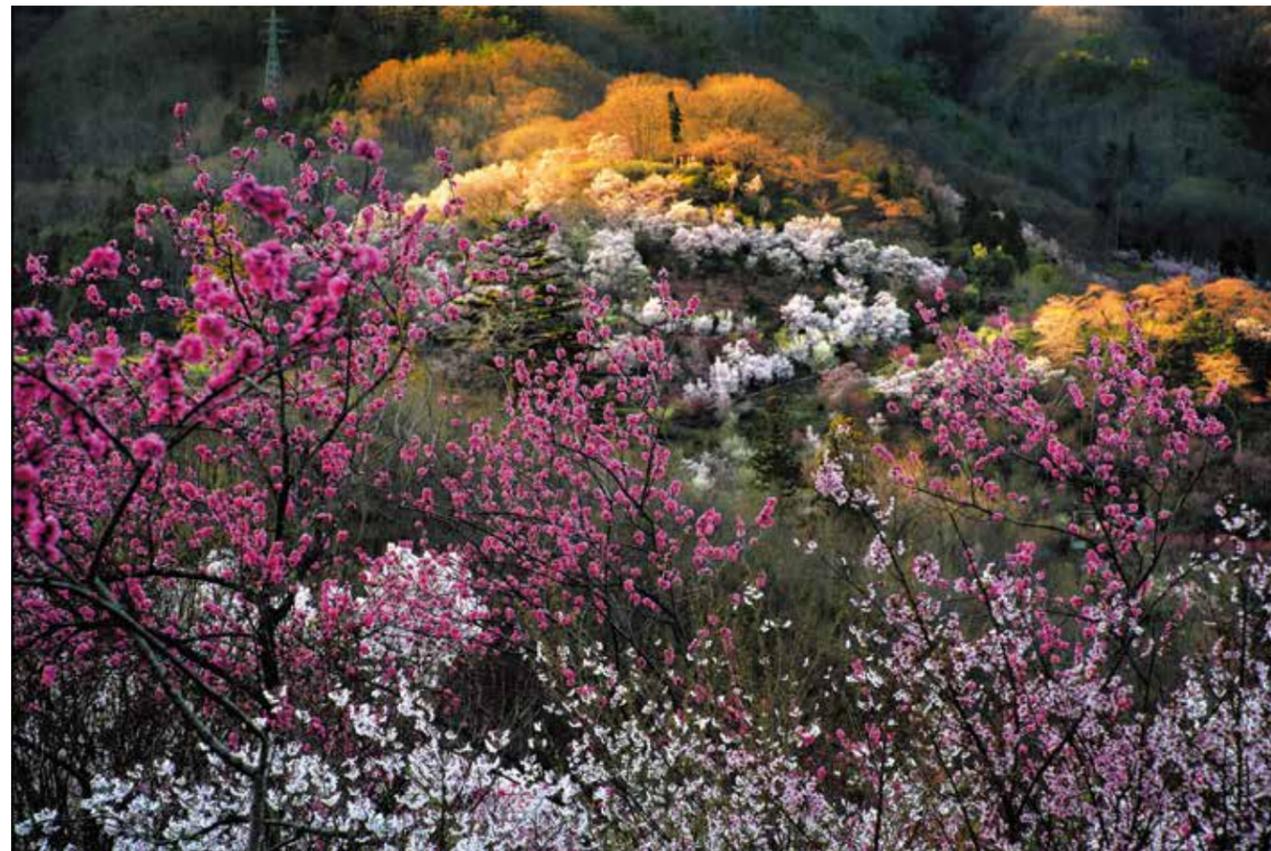
審査発表・入賞作品展示・表彰式

- 平成30年6月中旬審査会を予定
- 第一印刷花見山フォトコンテストホームページにて審査結果を発表します。入賞者には、別途ご通知いたします。
- 入賞者の方々への表彰式を開催いたします。また、入賞作品展も開催予定しています。

応募資格・形態・注意事項等

- プロ、アマ問いません。
- 応募作品は平成29年6月以降に撮影したもので、すべて他のコンテストに応募予定、実績のないものに限りません。(類似不可)
- 合成写真は不可
- お1人様、1部門につき3点まで応募できます。
- 作品は、四ツ切、ワイド四ツ切、A4カラープリント(銀塩・レーザープリント・インクジェットプリンター可)(A3サイズは不可、組写真不可)
- 撮影の際に、花見山や福島県に悪影響を与える行為はしないでください。
- 自然保護と交通渋滞対策のための交通規制に従ってください。
- 人物が被写体の場合は必ず被写体の承諾を得てください。肖像権侵害等の責任は負いかねます。
- 応募作品の著作権は、応募者に帰属します。
- 入賞作品及び応募作品の使用権は主催者に帰属し、各種印刷物、商品、プリント展示、広告媒体、インターネットなどへ使用させていただきます。
- 入賞作品の原版(フィルムまたはデジタルデータ)は、主催者の指定する日までに主催者にご提出ください。
- 応募規定に反する場合には入賞を取り消すことがあります。
- 応募作品の取り扱いについては十分注意いたしますが、万一の事故に対する責任は負いかねますので、予めご了承ください。
- 入賞された方のご氏名、居住地(市町村名まで)、作品名は、展示および入賞者発表の際に掲示いたします。
- 応募作品は、原則として返却いたしません。
(返却を希望される場合は、応募用紙の返却希望欄にチェックをし、着払伝票等に発送先をご記入のうえ作品と一緒に送ってください。)

応募先及び問い合わせ 〒960-8201 福島県福島市岡島字古屋館1-2 株式会社 第一印刷
「花見山フォトコンテスト」W係宛 TEL 024-536-3232



◆花見山の四季部門

「黄金峡」笠原 壽一 (福島県福島市)

第13回 秋山庄太郎記念 花見山フォトコンテスト 作品募集

◆花見山の四季部門

福島市の花の名所「花見山公園」の四季折々の魅力を伝える作品。

◆福島ふるさと部門

福島県の風景や行事などを撮影した作品。福島県の魅力を全国各地に発信する作品。

花見山フォトコンテストでは、企業賞に協賛して下さる方々とともに
福島県の魅力を発信していくパートナーも募集しています。

- 【主催】 株式会社第一印刷
- 【特別協力】 秋山庄太郎写真芸術協会、秋山庄太郎写真美術館、株式会社秋山写真工房、株式会社福島銀行、株式会社松屋
- 【後援】 福島県写真連盟、福島民報社、福島民友新聞社、(一社)福島市観光コンベンション協会、福島商工会議所
- 【協賛】 カメラのキタムラ、東日本旅客鉄道株式会社 福島駅、現代書林株式会社、福島リビング新聞社、富士ゼロックス株式会社、富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ株式会社、福島県南酒販株式会社、株式会社半澤紙店、常盤洋紙株式会社、株式会社光文堂東北支店、東洋インキ東北株式会社、誠伸商事株式会社、株式会社ヤマトヤ商会(予定企業を含みます)

第13回 花見山フォトコンテスト応募用紙

作品の裏面に、テープ(メンディングテープ)で四隅をしっかりとめてください。(のり付不可)複数枚必要な場合はコピーしてお使いください。

■応募部門		花見山の四季部門		福島ふるさと部門		いずれかの部門に○をつけて下さい※必須	
■名前(ふりがな)※必須		■年齢※必須		■作品タイトル(ふりがな)※必須			
		歳					
■住所(ふりがな)※必須		都道府県		■撮影機材・データ※必須			
〒 -				カメラ レンズ フィルター その他			
				■シャッタースピード ■露出 ■ISO感度 ■使用フィルム ■三脚			
				1/()秒 F/		有・無	
■返却希望欄		■撮影意図※必須(出来るだけ詳しく。作品展などで作品とともに紹介いたします。)		■原版※必須(○をつけて下さい)		フィルム ・ デジタル	
<input type="checkbox"/> 返却を希望する ※宅配便(着払)で ご返送します				■撮影地※必須		市 町 郡 村	
■整理番号(事務局記入欄)		■電話番号※必須		■職業		■性別※必須	
		()				男 ・ 女	
				■撮影日※必須		平成 年 月 日	

応募に際して、お預かりした個人情報は、入賞者への通知、作品展のネームプレート、作品展のご案内、作品返却希望者への返送、次回のフォトコンテストのご案内、HPでの紹介、企画のご案内に必要な範囲内で使用します。個人情報厳重に管理し、漏洩、滅失及びき損等を防止し、第三者への無断開示は行いません。

◆花見山の四季部門

「花見山公園」の四季折々の魅力を伝える作品(掲載した作品は企業賞等です)

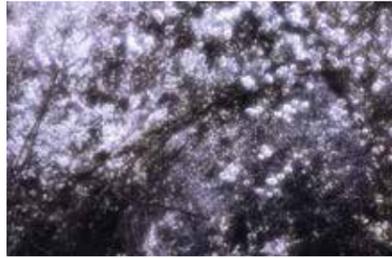
入選 秋山写真工房賞
「燃えるデシヨウジョウ」
栗原陽子(福島県福島市)



入選 カメラのキタムラ賞
「花見山遠望」青木 美幸(長野県須坂市)



入選 福島リビング新聞社賞
「朝焼けの吾妻連峰と花見山」
阿部 慶一(福島県本宮市)



入選 福島銀行賞
「花銀河」遠藤 康彦(福島県福島市)



入選 現代書林賞
「花見やまもん」大木 紀夫(福島県福島市)



優秀賞
「夕刻の競演」高澤 淳(福島県福島市)

福島を全国に発信する。秋山庄太郎記念 花見山フォトコンテスト

花見山フォトコンテストは、今年で13回目を迎えます。昭和の日本を代表する写真家、故秋山庄太郎氏の名を冠しての開催は8回目、秋山庄太郎賞の創設からは、9回目となります。

「花見山フォトコンテスト」は、福島復興と地域おこしの活動の一環として、写真家の秋山氏が「福島に桃源郷あり」と賞賛したことで、全国に知られるようになった花見山をはじめとする、ふるさと福島の美しさを、写真を通してより多くの人々に知らせることを目的に開催しています。

この間、多くの企業様より賛同を得て、企業名を冠した企業賞を創設しました。今後も、フォトコンテストの趣旨に賛同していただける皆様と手を取り合っていきたいと考えています。

秋山庄太郎賞をはじめとしたレベルの高い入賞作品については、より多くの人の目に触れるよう、展示する機会を数多く設けていきたいと考えています。

皆様の御協力とご支援をお願いいたします。

福島の桃源郷 花見山公園について



開墾前(大正時代)の花見山(阿部家所蔵)



初代園主 故 阿部伊勢次郎氏(昭和36年頃)

花見山公園の初代園主、阿部伊勢次郎氏は、1926(大正15)年から花を植え始め、1935(昭和10)年に、花卉農家として本格的に花の栽培を始めました。息子である阿部一郎氏と共に、人力で雑木林を開墾し、一本一本花木の苗を植え続けました。

その後、一郎氏は太平洋戦争に出征し、生還しましたが、戦友を亡くしたこともあり、「自分だけの人生ではない」との思いで開墾を続けました。

「きれいに咲いた花を見せてほしい」という周りの人からの声が増えてきたことに応え、「皆が気



二代目園主 故 阿部一郎氏

兼ねなく花を見ることが出来るように」との気持ちから、「花を見る山」花見山公園として1959(昭和34)年から一般開放を始めました。

1980年代半ばに、写真家の秋山庄太郎氏が花見山公園を訪れ、「この世の桃源郷」と称えて、全国に紹介しました。このことがきっかけとなり、今では全国から多くの観光客が訪れる福島の花の名所となっています。

園内は遊歩道が整備され、気軽に散策が楽しめます。春には、梅、ハナモモ、桜、レンギョウ、ボケ、モクレンなどが次々と花開き、周辺の花弁農家の畑と共に、小高い山全体が淡いピンク色に染まって見える様子はまさに、「この世の桃源郷」です。



あきやましよう た ろう
秋山庄太郎
(1920~2003)

東京・神田生まれ。原節子をはじめ女優のポートレートを数多く手がけ、第一線に立つ写真家としての地位を不動のものとする。

さまざまな写真関連団体の重職を務め、写真文化の発展に尽力した。1965年頃から花の撮影に本格的に取り組み、以後ライフワークと定め、全国各地を「花行脚」する。1980年代半ばには、当時「知る人ぞ知る」地だった花見山公園を訪れて「福島に桃源郷あり」と表現し、その名を全国に広めた。1986年、紫綬褒章受章。1993年、旭日小綬章受章。2001年、福島市ふるさと栄誉賞受賞。

写真提供:秋山庄太郎写真芸術館(東京・南青山)

◆福島ふるさと部門

福島県の風景や行事などを撮影した作品。福島県の魅力を全国各地に発信する作品。



ふるさと賞「五月晴れ」栗原 陽子(福島県福島市)



カメラのキタムラ賞
「厳寒の美」高橋 直裕(福島県福島市)



入選 松屋賞
「晩秋」佐藤 邦大(福島県南相馬市)



入選 富士ゼロックス福島賞
「桜さんも遊ぼうよ!」
斎藤しのぶ(福島県福島市)



入選 福島県南酒販賞
「闇に浮かぶおなほま港」
椎名 悦雄(福島県いわき市)



入選 R福島駅賞
「霧幻」齋藤 俊典(福島県福島市)

作品の活用



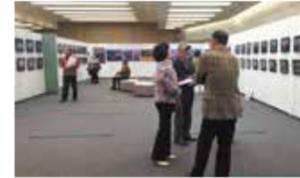
秋山庄太郎写真芸術館(東京南青山)



小田急百貨店新宿店



JR 福島駅新幹線コンコース内



福島銀行本店

今までの応募作品は、多くの企業や公共機関等に貸出し、展示などに活用されています。

ロビーやミーティングスペースなどに展示され、お客様の目を楽しませてくれると貸出先の皆様からも大変好評です。

審査会



「花見山の四季部門」は、東京都港区南青山の秋山庄太郎写真芸術館(元・秋山庄太郎アトリエ)で、高辻謙正・館弘美両氏により審査されました。



「福島ふるさと部門」は、福島市東部研修センターで、嶋原明寿氏・國分真司氏・矢内靖史氏らにより審査されました。

表彰式



福島銀行本店12階にて表彰式・懇親会を行いました。



花見山フォトコンテストホームページで過去入賞作品がご覧になれます。

第一印刷

〒960-8201 福島県福島市岡島字古屋館1-2(福島工業団地内)
TEL.024-536-3232 <http://www.daiichiinsatsu.co.jp/photo/index.html>



入賞作品ページ

本紙の無断複製・複写・転載を禁じます。 ©Daichiinsatsu Co.,Ltd.